

あけましておめでとうございます

今年の発表会は第60回目の節目の年

50回記念と同様朝日生命ホールで計画

つい先50回記念のOMC映像フェスティバルをやったなあ、と思っていたら、今年はまだ60回記念発表会の年だという。あれから10年たったことになり、それだけ私も含め古くからの会員諸氏も年を取ったことになる。どおりで物覚えが悪くなり、足腰があちこち痛み出したわけだ。

それはそうとして仕方の無いことだが、とにかくあれから10年、何とか元気で今までビデオを楽しみ、仲間と交流し、人生豊かにしてくれたことは感謝の至りである。

この後70周年記念、と考ただけで空恐ろしい。何とか元気でいたいものだとは思いますが、そこまでは考えまい。

ということで、この60回記念が古くからの会員にとっては最後の記念発表会になるはずである。思い切って50回同様、映像発表会のかつてのメッカ、朝日生命ホールで決めた次第である。早速、会場の手配をと、関さんから電話してもらおうと、なんと10月・11月の土日はほとんど詰まっていた予約できないという。ようやく11月28日(第4土曜日)に空きが見つかり仮押さえの手続きを行った(OMC例会は1週間前倒しとする)。

この上は会員諸氏に少しでも良い作品を作って、内容を盛り上げて頂きたいと願うばかりである。ともかく、本年もよろしく。(合原)

-
- 新年会；1月13日(第2月曜日)12時より。OCATビル5階のいつもの難波アサヒビヤレストランで

1月例会と総会のお知らせ

- 総会と第2例会；1月16日(第3木曜日)13時より
総会終了後、例会作品上映の前に進藤氏の4Kに関するお話があります。
- 通常例会；1月25日(第4土曜日)18時より。難波市民学習センター。

令和元年、皆さんよく活動して頂きました。

しかし数字的には例会出席者減の傾向が

毎年、年末に今年一年間の例会を振り返って、過去4年間と比べてどういう傾向にあるか調べています。今年の実績は過去年度と比べて如何だったのでしょうか。

下表をご覧ください

■この5年間の通常例会の記録

年度	会員数	出席者	出品数	総本数	備考
H 2 7	40 人	24.4 人	14.0 本	181 本	注) 総本数は通常例会、第2例会、課題コン、撮影婚等全て出品された作品の合計数
2 8	38	22.9	13.0	187	
2 9	37	22.0	12.4	205	
3 0	34	17.3	10.1	188	
R 0 1	31	14.6	9.7	180	

注) 出席者及び出品数は通常例会の1例会当たり。

■この3年間の第2例会の記録

年度	会員数	出席者	出品数	総本数	備考
H 2 9	37 人	16.8 人	9.3 本	75 本	注) 総本数には課題コン、撮影会コンの作品も含まれている
3 0	34	16.8	11.1	67	
R 0 1	31	14.0	10.7	34	

■解説

厳正な数字を見ていると、日本の少子化問題ではないが、年々厳しい状況になっていることは間違いない。考えてみると、元気だったあの人もこの人も病気で来られなくなったとかいう身の回りの親しい方々の顔が思い浮かぶ。新しい人の入会を切望してやまないが、近頃の若い方はネットに投稿して楽しんでおられる方が多く、私たちのクラブのようにいわゆる「作品」を作って楽しむという土壌がないのかも知れない。現在の会員さんは作品を作って皆に見てもらおうの楽しみにしておられ、ビデオを中心に話の輪をつくって生きる喜びを感じておられる。こういう楽しみ方をどうやって他の人に伝え、仲間にしていくのかが大きな課題であろう。

※

■通常例会、年間最多出席者

- ・12回出席者；江村、紙本、合原、進藤、高瀬の5氏
- ・11回出席者；岡本、関、中川、宮崎、森下の5氏

■通常例会、最多出品者

- ・12本出品者；江村、紙本、合原、進藤、高瀬、中川の6氏
- ・10本出品者；山本氏1名

以上、例会に多く出席して例会を盛り上げて下さった方、及び多くの作品を出品して頂いて楽しませて下さった方々に敬意を表し、1月の総会席上で記念品を贈呈いたします。

■年度賞発表

このほど幹事会で検討の結果、次の方々の作品が年度賞に選ばれました。

- ・年度最優秀賞 堀 皓二さん 「頑張れヒデちゃん」
- ・年度優秀賞 中村幸子さん 「ほんまもんへの拘り」
高瀬辰雄さん 「祇園祭 長刀鉾」

以上おめでとうございます。受賞者には総会席上で賞状及びトロフィーを贈呈いたします。

■第二例会を盛り上げて下さった方々。厚くお礼申し上げます。

- ・毎回出席いただいた方；江村、紙本、合原、進藤、高瀬、関、中川、山本の9氏。
- ・毎回出品頂いた方（旧作も含む）；江村、紙本合原、高瀬、中川、山本の6氏
(但し、課題コン撮影コン出品も含む)。

令和2年度の課題コンは宮中歌会始めの日に決まります

例年好評のOMC課題コンテストは宮中歌会始めの際、来年度の御題が発表された「題」をもってテーマを決めていますので、どんな題が出るか楽しみです。以前、「青」「草」などの題の時は全国コンでも通用しそうな立派な作品が出そろった年もありました。課題コンテストは、題のイメージをどう料理するか企画というかシナリオの勝負でもあり、大変勉強になります。作品コンテストは、5月第2例会を予定しておりますので皆さん是非チャレンジしてください。

丹波篠山ビデを大賞に中村、高瀬の両氏がノミネート

このほどご両人から伺った話では、令和2年2月2日（第1日曜日）に行われる丹波篠山ビデオ大賞の受賞作として、中村幸子さんの「嵐山のベテラン俵夫」（12月例会で上映）及び、高瀬辰雄さんの「奇跡の倒木桜」（4月例会で上映）がノミネートされた由。例年だと7作品が受賞されていたのに、今年は一部スポンサーが降りたのか5作品の受賞だそうで、グランプリから市長賞等、どの賞になるかは、発表会の2月2日に決まります。いずれにしても5賞しか無い受賞者のうち2賞をわがOMC会員が獲得するという事は、素晴らしいことです。おめでとうございます。発表会のあと結果が判りましたら改めてOMCニュースでお知らせいたします。

12月通常例会レポート

12月に入り、温かかった時期も通り越して冬至が直前の21日土曜日。例会場のある難波市民学習センターの周りも、若者中心に賑わっています。今回は、幹事会、世話役会につづいて今年最後の例会でした。久しぶりに元気に岩井さんが見えられましたが、寒さも加わったためか15名と少ない出席者で、11作品が上映されました。

そんな折、高瀬さん、中村さんの「丹波篠山ビデオ大賞コンテスト」入賞のニュースが飛び込んできました。おめでとうございます。リバイバル物の上映が続いているものの、皆さんの新作中心の上映が出来ました。

運営担当：司会：堀、書記：進藤、映写：岡本、坪井、メモリー記録：中川、受付：森下、宮崎
出席者：坪井、森下、堀、高瀬、紙本、森口、中川、合原、進藤、山本、江村、岡本、関、岩井、中村(受付順) 以上15名

上映作品

1.大堰川の秋 BD
高瀬 辰雄 9分40秒

<作者コメント>

三国峠を水源とし丹波から京都に流れる桂川は、淀川に合流するまでの83キロの間に5回名前が変わります。保津峡から渡月橋間は大堰川(おおいがわ)と呼ばれています。その大堰川の秋の風景と筏流し、もみじ祭を絡ませてまとめました。

<書記コメント>

戦国時代から江戸初期に活躍した京都「三長者」で「水運の父」・豪商「門倉了以」は、高瀬川とともに桂川・大堰川を水運の川に作り変えた。大堰川にある保津峡は、観光資源として現在も時代の要請に応え続けているのです。作者が見る川の景色は、嵐山繁栄の姿であり、人々の心に残る季節の移り変わる姿である。

印象的な京都の空気感とその自然の姿を描いており、知らぬ間に画面に引き込まれていくのです。



2.下津井電鉄線 BD
紙本 勝 12分10秒

<作者コメント>

今年の5月JR宇野線の茶屋町駅から下津井駅跡まで、27Kmのうち12Km余りを歩いた。時期的にも花あり、爽やかな風景を受け乍の快適なぶらり旅でした。又、下津井駅跡はレールも残り歩き甲斐がありました。



<書記コメント>

下津井電鉄は、ローカル線としても珍しい狭軌道の鉄道で、設立以来地元との協力など苦勞を重ねた運営を続けていましたが昭和30年代が最盛期だったという。1988年・昭和63年瀬戸大橋が開通した。初めて瀬戸大橋をわたるとき、橋の袂にある下津井港を見て地元の方に尋ねると1990年に全線廃線した後のことだった。その後、駅跡などずいぶん解体されたと云うが、倉敷市に払い下げられていたためかまだまだ残されているように見受けました。作品に登場する年配の方も、忘れられない光景に違いない。作者の前作といい、語り口に地元の香りを感じる良い方にインタビューされていると思いました。



3.暮れゆく溪 BD 森口 吉巳 8分40秒

<作者コメント>

台風の被害を受け、貴船の山々には倒木の散乱。しかし日暮れともなると、貴船はまさに幻想の別世界。

<書記コメント>

黄昏とは、「たそかれ」、「誰(た)そ彼(かれ)は」と、人の見分けがつきにくい、雲のない西の空に夕焼けの名残りの「赤さ」が残る時間帯」とありました。

明るいところと、暗くなっているところがある難しい時間帯を狙われました。作品の始めのころは、空の明るさにひかれて全体が明るくなり撮影がむづかしいところ。

灯笼に光が入り、山門から階段を上るあたりから夜の帳(とばり)真間近という雰囲気うまく表現されたと思います。もう一つ微かな紅葉のシーンがあればぐっとしまったのではと思うのは書記の独り言なのか。



4.秋雨の嵯峨野 直指庵 BD 中川 良三 5分11秒

<作者コメント>

秋の京都はどこに行っても人の波、嵐山と言え京都を代表する観光地である。

今回は、隠れた紅葉の名所と言われる、北嵯峨野の直指庵(ちよくしあん)を訪ねた。

この日は晴れ間があったものの雨模様、秋雨の紅葉もまた楽しむものとした。この寺には、思い出草ノートが置かれ自由に書き込めるようだ。この日も机の前に座っている女性の姿があった。

<書記コメント>

かつて、写真を撮っているとき、景色や建物をきれいに写せても、それは製作者が立派なのであってあなたの作品ではないとよく言われました。何の事かわからないままにしていますが、最近そんなことを思い出しています。来訪者が想いを綴る「思い出草」というノートが、1965年頃から始まったとされ、現在では5000冊以上に上ると云う。映像の中に、テロップ入りで1カットありましたが、どんなことが書かれているのか見たい気持ちにかられました。その撮影には気持ちが引けますが、見ること迄は出来るのではないかと思います。ナレーションが電子音ですが、こんな私の秘密のようなところの感想を語ってみるのはいかがでしょうか。



5.平野はいま DVD 合原 一夫 9分42秒

<作者コメント>

かつてのOVC撮影会2000年(平成12年)平野区にお住まいだった松村長二郎さんのご案内で、かつての環濠都市、平野の歴史と現在取り組んでおられる町おこしや旧家の復活事業などが紹介された。今から19年も前の映像であるが、今も変わらず町おこし博物館など行われているだろうか。今一度訪れてみたい気がする。大阪では数少ない空襲で焼けなかった町だけに古い建物や大木など残っていて興味深いところである。



<書記コメント>

一昔前には、大阪市内で活発に活動されていたグループがあった処と伺っていました。博物館の展示物にも、何か興味をひかれています。

6. 回る山車まつり

BD

進藤 信男

11分40秒

<作者コメント>

京都を出て但馬を通り日本海沿いに進む山陰道。福知山市夜久野町額田(やくのちょう むかた)はその街道沿いの町。素朴で珍しい「回る山車」が練り歩く「一宮神社」(いっきゅうじんじや)の秋祭り。祭りの日には、家が開放され、祭壇には生け花と屏風が飾られ神さんの到来を待っている。

若者たちの職場は、京都、福知山や和田山だと聞くと少し寂しいが、農村地帯で町を挙げて祭りを祝う姿には、ほっとした温かみを覚えるのです。

全く初めての方には難しいが、華やかさを追いかけるものではないこんな祭りの撮影にはやはり地元の人の一言が欲しいところです。当日いきなり求めるのは難しいので、祭りの取材にも事前準備の必要性を感じています。



2基の山車(宮)



王が仁ある政治を行う時に必ず現れるという聖なる獣「麒麟」

7. ヴネチア散策

BD

山本 正夢

9分

<作者コメント>

今回はじめてヴェネチアを旅した。天候にも恵まれイタリア人の案内で効率よく楽しくまわられた。

<書記コメント>

ヴェネチアは、イタリアの北東部、イタリア本島から少し離れた島、歴史的な商業都市なのですね。山本さんの海外ものでは、ノンナレーションで、いわゆる観光ものではない作風。町の光景で名所旧跡が展開するのかと思っていると、いつの間にか現地の日常生活ぶりなどに引き込まれている。観光などで訪れることが多い遊行場かと思っているといつの間にか街中の雑踏の中にあることがある。今回も、こんな特徴をいかに見ることができる。これらの映像を通して、ヴェネチアとはどんな所なのかを知っていくことになります。



8. 彩・よさこい

BD

江村 一郎

8分

<作者コメント>

土佐の高知で真夏に行われるよさこい祭り。16か所の競演場や演舞場があり、今回は梅ノ辻競演場から柳町演舞場までの8カ所を回る。約200チーム約18000人が参加する華やかなる土佐のカーニバルである。しかしながら、撮影するこちらは体力勝負となっているところ。来年大丈夫か。

<書記コメント>

そもそも高知で始まった「よさこい踊り」は、「鳴子を鳴らし前進する踊りであること」以外は、とにかく笑顔で楽しく踊ればOK。踊り子の群舞は、見るものを圧倒させる壮観さがある。

そのパワー、そのスケールを体感してください。ジャンル無制限！フュージョンこそよさこいダンスの魅力。として関西一円から関東までの参加がある。いまや、全国バージョンで各地に伝搬している。そして、よさこい全国大会です。真夏の最中に踊るのも、見るのも体力がいるとの作者の言葉に納得してしまう。

余りいろいろと考えないことが楽しむ秘訣なのかもしれない。

踊り子たちの姿を描き切るこの作風にも、そのことが覗えます。

例会では、タイトルのつけ方の話がありました。毎回力強い踊りを見せていただきますので、何かその度・その作品にポイントを付けていくと「あの作品」という印象が強く出てくるのでは……。



9.小豆島紀行

岡本 至弘

DVD

12分

<作者コメント>

2002年 OMC 撮影会作品です。

<書記コメント>

この撮影会には、私は OMC 会員になり初めての参加だったことを思い出しています。撮影会とは、どんなことをするのか、作品とはどんな具合にまとめるのか、よく理解しないままの参加でした。先輩方の行動から、被写体への接し方、何をどのように撮影するのがよいか、ひたすら当たって砕けろでした。

この作品では、「紀行」となっていますので撮影旅行全体を網羅的にまとめられたものと思います。今見てみると、歌舞伎のテーマが大きいだけにどこかに重点があった方が分かり易かったように感じています。きれいな瀬戸内海、島の佇まい、巡礼されている人たち、どれをとってもテーマが山積のように感じています。しかし、撮影会という限られた時間内の事なのであまり欲張れませんね。



10.負の遺産

関 剛

BD

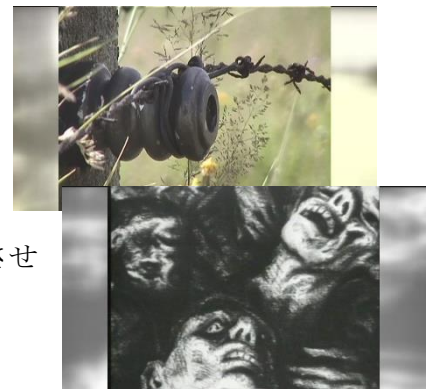
6分

<作者コメント>

今朝のテレビでアウシュビッツの番組を見て思い立った。初めてポーランドを訪れた時、大きなショックを受けた思い出がある。当時は、観光客もまだらだったが、今朝見たテレビではぞろぞろ多くの人で賑わっていた。

<書記コメント>

アウシュビッツの遺跡・遺構なので記録風では作品になりませんね。ここは、司会者の弁と同じように作者の独壇場としてゆっくりと鑑賞させていただきます。



11.嵐山のベテラン俵夫

中村 幸子

BD

6分59秒

2019年丹波篠山ビデオコンテスト

入賞作品

<作者コメント>

若き頃に怪我して治らぬ腰とひざの持病を持ちながら、好きな嵐山を人力車で案内を続ける為に入社から2年間ストレッチをしながら頑張る50代のベテラン俵夫の生きざまを追ってみた。人力車はどんどん早く走るので撮影は2カメでないと不可能なので撮影には高瀬さんに協力いただき感謝。取材先の制約が厳しく今までで一番大変だった。

<書記コメント>

身近に、良いテーマを見つけられ、よく纏め上げられましたね。まさに、インタビュー主体に組み立てたドキュメンタリーストーリー、コンテスト向けの作品でした。おめでとうございます。



以上で上映を終了し、会長から来年の OMC フェスティバルは 60 回記念の年になります。会場を変えて、朝日生命ホールを予定していることが伝えられました。

このあと、喫茶組と居酒屋組に分かれて散会しました。

来年は、干支では子年。満 60 歳になる方が還暦。72 歳、84 歳、96 歳になる方の年です。

この冬の寒さにも負けず、元気に作品作りを続け、期待に満ちた年、令和 2 年を迎えましょう。